

令和4年度第3回スポーツ団体組織統合検討会議議事録

日 時：令和4年10月11日 18時00分～20時00分

場 所：名寄市民文化センター視聴覚会議室

<出席者>

菊池慎二（風連スポーツ協会）、明石裕（風連スポーツ協会）、筒井正敏（風連スポーツ協会）、遠藤和之（名寄体協）、安澤豊（名寄体協）、山田典之（名寄市議会）、山崎真由美（名寄市議会）、阿部雅司（Nスポーツコミッション）、遠藤貴広（Nスポーツコミッション）、荻野大助（Nスポーツコミッション）、黒井理恵（Nスポーツコミッション）、加勢雅善（NPO法人ETIC./外部人材）、松澤大介（名寄市）

1, 討議内容

(1) 今後の流れについて

①会議の進め方について

- ・ N スポーツコミッションで会議進行・連絡調整を主体で行っていくが、皆さまと同じ立場で議論を進めていきたいと考えている。

②役割分担

- ・ 風連町スポーツ協会事務局と名寄市体育協会事務局と名寄市との実務者会議を別途開催して、事業の整理などを行っていく。本検討会議は新組織となった場合に、どのような事業を進めていくべきか、市民にどのように還元できるかを考えていく役割としていきたい。

(2) 新組織の活動方針について

- ・ 今回の会議帯から意見を集約して事務局でまとめて、この会議体に提案していく。両体育協会の事業報告書、N スポーツコミッションの事業紹介を見ていただきながら意見をもらう。

①各団体の事業状況について（別紙参照）

- ・ 名寄体協>長期、短期のスポーツ教室。加盟団体の協力。新規1500円の回数券（2回分の無料チケットがある）。2つはお試していくつかできて、8つの教室から選ぶ。1回500円くらいに換算される。メンバーは固定化している状態。現在会員数は93名。短期教室は幼児向け教室がメイン。加盟団体主催のスポーツ教室は各団体が運営しており、受付のみを体協が行っている。
- ・ 風連スポーツ協会>協会としてはなにもしていない。各団体が行っている。体育施設は指定管理ではない。N スポに統合されたとしたら将来的には指定管理になるのかもしれない。パークゴルフ大会は主催している。
- ・ N スポ> 2018年に評議会を立ち上げ2019年に任意団体として、名寄市のスポーツ合宿推進課と共に事業運営を行なっている。ビジョン策定として、様々な民間団体と合わせて協議しながら、次の3つを活動方針としている。①身体的、精神的、社会的に良好な健康な市民が暮らす②街の資源を利活用する③新たな価値や良い人材を生み出すこと、スポーツを通じて実現するこ

と。事業項目としては(1)青少年教育人材育成(2)市民の健康増進(3)地域経済の活性化。(1)は「ジュニアスポーツアカデミー」を小学4年～中学2年向けに2020年より、「Nスポキッズ」は小学1～3年向けに2022年より始めた。

- ・ (参考) 風連ポポ>キッズ (1-3年)、多種目サークル (1-6年)、スイミング (参加社数多い)、少年団が丸ごとスポーツクラブの会員になっている (トランポリンは特にその仕組み)。短期ではトランポリンや水泳、スキーなどを単発で体験できるようになっている。事業内容はかつての風連地区の事業を踏襲している。他、新しく始めている事業としては、「健康美人塾 (一般向け)」で、登山、フラダンス、ヨガ、やそのときどきによってやる。また、会員親睦事業として日ハム応援にいったりなど。子どもと一緒に旭山動物園に行き歩いて歩くなど。スポーツに限らず文化的なものも行っており、陶芸教室は年間2回実施。子ども向けプログラムのニーズが高い。

(3) 新組織でやったらいいと思うこと①各スポーツ協会の統合について

- ・ パークゴルフ協会は風連と名寄は統合するのか? →それはしない。
- ・ 各団体がNスポ (新組織) に登録する

①部活動

- ・ クラブ活動では、風連剣道連盟で名寄地方圏連で通学校の剣道部を集約していくという話が出ています。名寄と風連の中学校部活動として始まっている。来年3月から中学校は部活動をやっいていこう (学校の校長単位で動いている)、来年3月から。小さな学校は少年団活動で受けてもらいたいということで結論が出てきているが、そこにNスポがどこで関わってくるのかがわからない。
- ・ 合同部活動などで子どもたちの選択肢を多くしようと思っている。Nスポも子どもたちの選択肢を増やす組織であってほしいと思っている。
- ・ 部活動は教育委員会が部活動の対応の窓口となっている。Nスポは少年団や部活動指導者周りのコーディネートができたらいいいと思っている。国も学校と競技団体のコーディネーターを設置する事業について予算を出していくという方向が出ている。
- ・ 少年団の指導者は学校の先生が多い。Nスポになると教員はどうなるのか?
- ・ (風連) 教員も地域の指導者になってほしいとお願いしている。校長レベルではOk出ているが、熱量のある先生は「自分の学校で」と思っていて、温度差はある。学校・教育委員会を抜きにしてNスポでやる、というのは難しいだろう。道筋はつくる必要があるだろう。
- ・ 熱のある先生も土日は休まなくてはならないとなっている。部活に関わろうとすると16時からになるので、シニアか公務員かしかいないのでは。これから現実的に起きていくことになる。これを決めるのは教育委員会。いろんな大会でも手伝う人が70代。若い人がいない。ボランティアスタッフを広域から集める。Nスポが人材バンクを作っていったらいいのではないかな。いままでできないようなことができたらいいいのではないかな。

②指導者、少年団

- ・ 学校の先生が少年団を支えていた時代もあった。今年は1割にもなっていないくらいに落ち込ん

だ。先生の感覚も変わってきた。少年団は2人指導者がいないとダメだが、地域で確保できていない団体はない

- ・ 学校と少年団がつながりそうでつながっていない。だれにどう相談していいかわからない。バレー少年団5つあるけど、指導者間の交流もなく少年団で子どもたちの取り合いがおき、チームスポーツが成り立たなくなっていたりする。そういった課題をNスポがコーディネーターとして関わり、子どもたちが高校生になってもやろうかと思えるような環境を作っていってほしい。
- ・ 青少年人材育成部会でも話題になったが、サークルやジュニアクラブなどにも教えている人がいるよね。横の連携で指導者交流会ができたらいいいと思っている。

③大学とのかかわり

- ・ 大学とスポーツの関わりの可能性としては、1つは全国大会クラスの学生もいるが、名寄大学ではスポーツをやっている余裕はない。マイナースポーツ材の補強としてコーチングの補助とかできるのでは？ 2つめは栄養学科は唯一スポーツに関心を持っている学生が多い(スポーツ栄養)。1-2割は関心を持っている。Nスポがコーディネートしている味の素とのコラボは学生の学びの場になっている。

④施設管理とソフト部分との相乗効果

<札幌の例について阿部さんから>

- ・ 札幌の組織統合について。3年前に札幌の健康スポーツ財団(札幌の施設を管理)、札幌市体育協会が統合。施設を管理しているお金を体育協会と一緒に効率良く、札幌施設を効率的に使いながら育成をして、2030年に札幌出身オリンピックを送り込みたいと考えている。
- ・ ジュニア発掘育成は札幌の10箇所のエリアでエリアの施設を使いながら子どもたちをいろんなスポーツを体験させている(エリアに特色も出る)。
- ・ 1か所20~25名、全体で300人。最初はさまざまなスポーツ体験を経て、最後は自分の得意なスポーツに進んで行く、小学校→中学校→高校までの育成事業を始めている。かつては全体にばらまいていた強化費を、選考委員会を開いて札幌でメダルが取れそう種目8種目(冬5、夏3)を選んで、強化費を集中させることにした。少しずつ、結果がでてきている。1期生からオリンピックがでるかも。
- ・ ソフトを管理していた体協側は、それまでは団体サポートまでで、人数が少なくて強化までは手をつけられなかった。一緒になることで人材が配置できるようになった。施設管理の人がソフトに行けるようになった。人数が増えらるとできることが増えてきた。

<他意見>

- ・ 使わなくなっている学校の施設利用も考えなくては？

⑤議事録の公開と今後について

- ・ 統合をしていくことを前提としてという話があったが、それはいつどこで、誰が決めたのか？ それぞれの団体の想いを受け止めていかななくてはならないのでは？ 名寄はどうなっているのか？

- ・ 名寄体育協会のスタンスとしては、組織としては前向きに話しをしていくというのは決まった。風連と名寄の事業を細かく整理して、一緒になったらどう理想の組織ができるかを考えようということになった。その後に N スポの事業も含めて考えようと思っている。この会議では有識者の意見も取り入れていこうとは思いますが、それではできない、となるかもしれない。前向きに話していきたいと思いますという場なのでそうなったらいいなと思ってこの会議には参加しているが、一緒になっていく前提はない。
- ・ 検討会議の中身が見えない。議事録は出してほしい。
- ・ それぞれの事業は素晴らしいと思った。今後も社会情勢が変わらないのであれば、現在の事業をそのまま継続していくのが一番いいと思う。しかし、人口減少により社会は大きく変わっているなかで、将来を考えるとこのままでは立ち行かなくなるのだということを念頭に置いてほしい。

以上